

病害虫情報(第11号)3月予報

令和8年2月27日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 3月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【カンキツ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、春キャベツ】
- II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 7

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和8年2月24日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 3月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【カンキツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
かいよう病 (中晩柑類)	—	○	(予) ムッシュボルドーDF [—, —] 500~1,000倍 + クレフノン [—, —] 200倍 等 ❖ ICボルドー66Dを発芽後に使用する場合は、アビオン-E1,000倍を加用する。また、マシン油乳剤との近接散布(2週間)は避ける。
ミカンハダニ	並	△ (発芽後)	マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ❖ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 ❖ 冬期に防除しなかった園は、発芽後に必ず防除する。
ミカンナガタマムシ	—	△	❖ 被害の確認される園では、成虫発生源となるため、被害の激しい樹を伐採し、園外で適切に処分を行う。 ❖ ミカンナガタマムシについて、防除情報(病害虫情報 号外 第3号)を令和7年4月16日に発表している。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ウメ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
かいよう病	—	○	(予) コサイド3000 [硬核期まで, —] 2,000倍 + クレフノン [—, —] 200倍 等 ❖ 強風雨時に感染するので、降雨前の散布を心掛ける。
灰色かび病	—	○	(予) ベルコート水和剤 [30日, 3回] 2,000倍 等 ❖ 花びらが散り、萼(がく)が残っている落弁期に防除する。
灰星病	—	○	❖ 灰星病は花から感染し、枯れた枝が翌年の伝染源になる。枯れた枝は萌芽期から新梢展開期が発見しやすいので剪除する。
アブラムシ類	—	○	チェス顆粒水和剤 [21日, 2回] 5,000倍 スミチオン乳剤 [14日, 2回] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チャ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
もち病	並	○	(予) ドイツボルドーA [14日, —] 500倍 (予) コサイド3000 [14日, —] 1,000倍 等 ❖ 前年の多発園では必ず散布する。
カンザワハダニ	並	○	【開葉後】 バロックフロアブル [14日, 1回] 1,000~3,000倍 ダニゲッターフロアブル [7日, 1回] 2,000倍 等 ❖ 初期防除に重点をおく。 ❖ バロックは、ラベルを確認のうえコサイドとの近接散布を避ける。 ❖ ダニゲッターは、覆下栽培では萌芽前に使用する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
灰色かび病	やや少	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病: 7.5～15g/10a/日、うどんこ病: 15g/10a/日										
葉かび病	並	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 灰色かび病: 1,000～1,500倍										
うどんこ病	やや少	○	(予) ダコニール1000 [前日, 4回] 1,000倍 (予・治) パレード20フロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日, 2回] 灰色かび病、うどんこ病: 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] うどんこ病: 300～600倍 (治) ベミデタッチ [前日, -] うどんこ病: 500倍 等										
			<ul style="list-style-type: none"> ◆ 花がらや枯れた葉先は除去する。 ◆ 多湿にならないように管理する。 ◆ 近年、4月以降にうどんこ病の発生が目立つため、病斑が確認される前から予防的に薬剤散布を行う。 										
コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ	並 並	○ ○	ダントツ水溶剤 [前日, 3回] コナジラミ類: 2,000～4,000倍 アニキ乳剤 [前日, 3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ: 1,000～2,000倍 ファインセーブフロアブル [前日, 3回] タバココナジラミ類、アザミウマ類: 1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類: 300倍 ベミデタッチ [前日, -] コナジラミ類: 500倍 等										
アザミウマ類	並	○	☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ◆ タバココナジラミについて、防除情報(病害虫情報 号外 第7号)を令和7年12月23日に発表している。										
			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(トマトモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td rowspan="2">アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、マルハナバチの巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

病害虫情報

(令和7年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント									
べと病	やや多	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤 [前日,3回] 600～800倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600～800倍 ☞ 上記2剤は有効成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] 1,000倍 等 ◆ 過湿になると多発する恐れがある。午後は換気に努める。									
うどんこ病	やや少	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000～3,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 乾燥は発生を助長するので、過乾燥に注意する。									
アブラムシ類	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍									
コナジラミ類	並	○	マッチ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍									
オンシツコナジラミ	並	○	チェス顆粒水和剤 [前日,3回]									
タバココナジラミ	並	○	アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍 ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 等									
アザミウマ類	並	○	◆ タバココナジラミについて、防除情報(病害虫情報 号外 第7号)を令和7年12月23日に発表している。 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(キュウリモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											
ミナミキイロ アザミウマ	並	○										
ミカンキイロ アザミウマ	並	○										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	やや多	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000～1,500倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800倍 等 ◆ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。
うどんこ病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 15g/10a/日 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) クロスアウトフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 (治) サフオイル乳剤 [前日, -] 300倍 等 ◆ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。 ◆ 窒素過多や草勢低下のときに多発しやすいので、適正な肥培管理を行う。
アブラムシ類	並	○	バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍、コナジラミ類: 2,000倍
コナジラミ類			チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍
オンシツコナジラミ	やや少	○	エコピタ液剤 [前日, -] アブラムシ類: 100倍、コナジラミ類: 100～200倍
タバココナジラミ	やや少	○	サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 等
アザミウマ類	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] 5,000倍 ファインセーブフロアブル [前日, 3回] 1,000～2,000倍 等
ハダニ類	並	○	ダニサラバフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし

[使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、ミツバチの巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

病害虫情報 (令和7年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【春キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや少 —	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 菌核病:1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) アミスター20フロアブル [前日,4回] 菌核病:2,000倍
菌核病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	並 並	○	等 ◆ 菌核病は、株元まで薬液が届くように早い時期からの予防に努め、発病株は早期にほ場外で処分する。 ◆ 灰色かび病の発病部位は、見つけ次第除去する。
コナガ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや少 並	○	アニキ乳剤 [3日,3回] コナガ: 1,000～2,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] コナガ:1,000～1,500倍、ネギアザミウマ:1,000倍
アブラムシ類 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや多 並	○	☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ハチハチ乳剤 [14日,2回] コナガ、アブラムシ類:1,000～2,000倍
ネギアザミウマ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	— —	○	アザミウマ類:1,000倍 ベネビアOD [前日,3回] コナガ:2,000～4,000倍 アブラムシ類、アザミウマ類:2,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和7年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 3月の気象予報(気象庁 2月24日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	40%	30%	30%

* 2月19日発表1か月予報による

(2) 3月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	並	1) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年より少なく(－)、慣行防除区で発生が平年並(±)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
チャ	もち病	少	並	1) 前年9月の巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 前年9月の県予察ほ(寸沢嵐)調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	カンザワハダニ	少	並	1) 前年10月の巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 前年9月の県予察ほ(寸沢嵐)調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
促成トマト	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	葉かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が過去7年平均より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成・半促成キュウリ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	灰色かび病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
春キャベツ (横浜・藤沢地区)	菌核病	—	並	1) 昨年11月の秋冬キャベツの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	—	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原では平年並(±)、県予察ほ(平塚)では平年よりやや多い(+). 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	アブラムシ類	—	並	1) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来数は、平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
春キャベツ (三浦半島地区)	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(—) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(—) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、バトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回